

第2章 数値から見る湯河原町

1 人口の状況について

1) 総人口と総世帯数の推移

本町の総人口は、令和4年1月1日現在、減少を続けている。世帯数は増加する一方、1世帯あたりの平均世帯人数は減少している。

【総人口と世帯数】

(単位:人、世帯)

区 分	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和4年
総人口	28,389	27,721	27,430	26,848	25,026	23,426	23,041
男 性	13,123	12,817	12,660	12,370	11,556	10,884	10,711
女 性	15,266	14,904	14,770	14,478	13,470	12,545	12,330
一般世帯数	10,515	10,465	10,793	10,972	10,724	10,662	10,763
平均世帯人員	2.63	2.57	2.46	2.35	2.33	2.20	2.14

資料:国勢調査、神奈川県衛生統計年報

2) 年齢区分別人口の推移

年齢3区分の人口構造の推移をみると、年少人口、生産人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にある。

【年齢3区分の人口】

(単位:人)

区 分	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和4年
年少人口(0～14歳)	3,882	3,627	3,270	2,846	2,271	1,750	1,636
割 合	13.7%	13.1%	11.9%	10.6%	9.1%	7.5%	7.1%
生産人口(15～64歳)	19,084	17,838	16,719	15,256	12,859	11,586	11,221
割 合	67.2%	64.3%	61.0%	56.9%	51.6%	49.5%	48.7%
老年人口(65歳以上)	5,423	6,249	7,437	8,722	9,768	10,096	9,945
割 合	19.1%	22.5%	27.1%	32.5%	39.2%	43.1%	43.2%
総人口	28,389	27,721	27,430	26,848	25,026	23,426	23,041

※年齢不詳を含む

資料:国勢調査、神奈川県衛生統計年報

3) 世帯構成の推移

世帯構成の推移をみると、一般世帯数の増加傾向は平成 22 年がピークで、その後減少傾向となっている。一方、単独世帯、65 歳以上の高齢単身者世帯の増加は大きくなっている。高齢者夫婦世帯（夫 65 歳以上・妻 60 歳以上の夫婦のみの一般世帯）は平成 22 年がピークで、その後減少傾向となっている。

【世帯構成の推移】

(単位:人)

区 分		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
一 般 世 帯 総 数		10,515	10,465	10,793	10,972	10,724	10,662
うち、核家族世帯		5,808	5,956	6,065	6,035	5,815	5,646
	割 合	55.2%	56.9%	56.2%	55.0%	54.2%	53.0%
うち、単独世帯		3,083	2,943	3,237	3,539	3,740	4,103
	割 合	29.3%	28.1%	30.0%	32.3%	34.9%	38.5%
(再掲)65歳以上の高齢単身者世帯		957	1,038	1,355	1,716	2,092	2,279
	割 合	31.0%	35.3%	41.9%	48.5%	55.9%	55.5%
うち、高齢者夫婦世帯(夫65歳以上・妻60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯)		739	950	1,222	2,439	1,706	1,762
	割 合	7.0%	9.1%	11.3%	22.2%	15.9%	16.5%

資料:国勢調査

4) 出生の推移

神奈川県では、出生率は減少傾向にあるが、本町では出生数、出生率ともに、大きく減少している。

(単位:人)

区 分		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和4年
出 生 数		232	223	152	149	117	68	64
出生率(人口千対)		8.2	8.0	5.5	5.5	4.7	2.9	2.8
神奈川県	出生数	80,692	82,906	76,196	78,077	73,475	60,865	56,498
	出生率(人口千対)	9.9	9.9	8.8	8.8	8.2	6.6	6.1

資料:神奈川県衛生統計年報

5) 死亡の推移

死亡数、死亡率とも増加しているが、年齢調整死亡率は減少傾向となっている。

(単位:人)

区 分		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和4年
死 亡 数		285	293	336	381	392	402	481
死亡率(人口千対)		10.0	10.6	12.3	14.2	15.7	17.2	21.1
年齢調整死亡率 (人口千対)		5.78	5.13	5.16	4.41	4.11	3.29	4.01
神奈 川県	死亡数	46,507	50,539	58,801	67,760	75,762	84,601	98,821
	死亡率 (人口千対)	5.6	6.0	6.7	7.5	8.3	9.2	10.7
	年齢調整死亡率 (人口千対)	5.2	4.7	4.3	3.9	3.5	3.3	3.5

資料:神奈川県衛生統計年報

※「年齢調整死亡率」とは、年齢が異なる人口集団の間で、年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いるもの。この表の数値は、人口千人当たりの割合。

6) 主要原因別死亡数の推移

主要死因別の死亡状況についてみると、老衰の死亡数が増加傾向にあり、脳血管疾患の死亡数が減少傾向にある。

順位	平成12年			平成17年			平成22年		
	原 因	死亡数	割合	原 因	死亡数	割合	原 因	死亡数	割合
1	悪性新生物	84	30.3	心疾患	111	40.5	悪性新生物	116	43.2
2	心疾患	68	24.5	悪性新生物	96	35.0	心疾患	103	38.4
3	脳血管疾患	54	19.5	脳血管疾患	50	18.2	肺炎	50	18.6
4	肺炎	36	13.0	肺炎	33	12.0	脳血管疾患	39	14.5
5	不慮の事故	18	6.5	不慮の事故	12	4.4	老衰	24	8.9

順位	平成27年			令和2年			令和4年		
	原 因	死亡数	割合	原 因	死亡数	割合	原 因	死亡数	割合
1	悪性新生物	108	43.2	心疾患	130	55.5	心疾患	145	62.9
2	心疾患	76	30.4	悪性新生物	87	37.1	悪性新生物	125	54.3
3	脳血管疾患	33	13.2	老衰	32	13.7	老衰	54	23.4
4	老衰	33	13.2	脳血管疾患	31	13.2	脳血管疾患	41	17.8
5	肺炎	31	12.4	肺炎	18	7.7	肺炎	15	6.5

資料:神奈川県衛生統計年報

2 特定健康診査、がん検診の動向について

1) 特定健康診査及び特定保健指導の状況について

① 特定健康診査について

メタボリックシンドローム予防のため平成 20 年度から特定健康診査及び特定保健指導が開始された。湯河原町国民健康保険加入者の特定健康診受診率は増加傾向にはあるものの、未だ高くはない。

※メタボリックシンドローム

内臓脂肪型肥満に加え、①脂質異常、②高血糖、③血圧高値のうち2つ以上あわせ持った状態をいう。それぞれの危険因子がまだ病気でない軽い状態であっても、重なることで、命にかかわる虚血性心疾患や脳血管疾患を引き起こすリスクが高くなる。

【特定健康診査等の受診状況】

(単位: 人)

年 度	特定健康診査(※1)		ご長寿健康診査(※2)	
	受診者	受診率	受診者	受診率
令和2年度	1,104人	22.5%	1,229人	23.6%
令和3年度	1,420人	29.5%	1,533人	29.3%
令和4年度	1,421人	32.1%	1,501人	27.8%
令和5年度	1,361人	32.9%	1,616人	29.2%
令和6年度	1,214人	30.9%	1,696人	29.5%

※1 特定健康診査

対象: 40～74 歳の国民健康保険加入者
内容: 身体測定、血圧測定、検尿、血液・生化学検査、診察(医師の判断により心電図・眼底検査)

※2 ご長寿健康診査

対象: 後期高齢者医療制度の加入者
内容: 身体測定、血圧測定、検尿、血液・生化学検査、診察(医師の判断により、心電図・眼底検査)

② 特定保健指導について

積極的支援は 6 か月間に 5 回以上、動機付け支援は 6 か月間に 3 回の支援をそれぞれ行い、特定保健指導対象者の方が生活習慣を改善できるようにするものであるが、終了者が少ない。

(単位: 人)

年 度	積極的支援		動機付け支援	
	対象者	終了者	対象者	終了者
令和2年度	22人	1人	103人	15人
令和3年度	30人	11人	135人	23人
令和4年度	37人	7人	119人	17人
令和5年度	20人	6人	86人	12人
令和6年度	20人	6人	112人	25人

※ 特定保健指導

対象: 特定健康診査の結果、メタボリックシンドロームのリスクが高い(生活習慣病になるリスクが高い)と判定された方

内容: 保健師・栄養士と、個別面談を実施する。個人に適した日常生活で無理なく行える具体的な健康づくりの方法と一緒に考えていく。積極的支援は「メタボリックシンドロームによる生活習慣病のリスクが重なっている方」、動機付け支援は「メタボリックシンドロームによる生活習慣病のリスクが出現し始めている方」が対象。

2) がん検診の受診状況について

肺がん検診の受診率は増加傾向にあるが、依然として低い水準にとどまっている。一方、女性がんについても、子宮頸がん検診、乳がん検診とも受診率が低迷している。本町の死因で悪性新生物（がん）が上位であることから、受診率がより向上することが望まれる。

【がん検診の受診状況】

(単位:人)

年 度	胃がん検診		肺がん検診		大腸がん検診	
	受診者	受診率	受診者	受診率	受診者	受診率
令和2年	308	3.1%	1,344	13.5%	1,771	17.9%
令和3年	366	3.7%	1,503	15.2%	2,100	21.2%
令和4年	348	3.5%	1,480	15.0%	2,067	20.9%
令和5年	334	3.4%	1,597	16.2%	2,218	22.5%
令和6年	315	3.2%	1,537	15.6%	2,044	20.7%

年 度	子宮頸がん検診		乳がん検診	
	受診者	受診率	受診者	受診率
令和2年	747	11.1%	372	8.0%
令和3年	883	13.1%	439	8.6%
令和4年	846	13.0%	415	9.1%
令和5年	815	12.5%	549	10.7%
令和6年	836	12.8%	513	8.5%

※ がん検診対象者と内容

① 胃がん検診

対象:40 歳以上の男女
内容:バリウムを飲んだ後、レントゲン撮影をする。

② 肺がん検診

対象:40 歳以上の男女
内容:胸部レントゲン撮影をする。問診の内容により痰の検査を実施する。

③ 大腸がん検診

対象:40 歳以上の男女
内容:検便により、潜血がないかを調べる。

④ 子宮頸がん検診

対象:20 歳以上の女性
内容:子宮頸部の粘膜を採取し、顕微鏡で検査をする。

⑤ 乳がん検診

・視触診とマンモグラフィー併用検診
対象:40 歳以上の女性で年度内に偶数歳になる人
内容:乳房の視触診とマンモグラフィー(乳房のレントゲン撮影)を実施する。

・視触診単独
対象:40 歳以上の女性で年度内に奇数歳になる人
内容:視診・触診による検査を実施する。

3) 歯科衛生の動向

① 3歳6か月児歯科検診のむし歯の状況

むし歯のない子どもの割合は平成29年度までは増加傾向にあったが、平成30年以降減少傾向となっている。また、むし歯がある子どもについては、う歯総本数が減少傾向にある。だが、むし歯のある子どものうち重度（B型＋C1型＋C2型）が約1～5割いる。

【3歳6か月児歯科検診の受診状況】

(単位:人)

年 度	受診数(人)	むし歯のある人			むし歯のない人	
		人数	割合	う歯総本数	人数	割合
平成27年度	150	17	11.3%	37	133	88.7%
平成28年度	114	21	18.4%	83	93	81.6%
平成29年度	102	10	9.8%	24	92	90.2%
平成30年度	108	23	21.3%	70	85	78.7%
令和元年度	96	22	22.9%	34	74	77.1%
令和2年度	86	10	11.6%	46	76	88.3%
令和3年度	73	12	16.4%	23	61	83.5%
令和4年度	87	7	8.0%	21	80	91.9%
令和5年度	74	7	9.5%	24	67	90.5%
令和6年度	70	11	15.7%	43	59	84.2%

年 度	むし歯のある人の型別分類(人)					むし歯のある人に対する 重度の割合	
	A型	B型	C1型	C2型	D型 (再掲)	B型＋C1型＋ C2型	D型
平成30年度	15	6	1	1	1	34.8%	4.3%
令和元年度	18	4	0	0	0	18.2%	0.0%
令和2年度	4	4	0	2	2	60.0%	20.0%
令和3年度	9	0	0	1	0	8.3%	0%
令和4年度	6	1	0	0	0	14.3%	0%
令和5年度	3	3	0	1	0	57.1%	0%
令和6年度	9	1	1	0	1	18.2%	9.1%

※むし歯の型別分類

- A 型: 上顎前歯部のみ、または臼歯部のみむし歯
- B 型: 上顎前歯部および臼歯部にむし歯
- C1 型: 下顎前歯部のみにむし歯
- C2 型: 下顎前歯部と他部位にむし歯
- D 型: 6 本以上むし歯がある人

② 成人歯科検診の状況

成人歯科検診を平成 16 年度から 40～80 歳の 5 歳刻みの節目年齢の方、令和 6 年度からは 20 歳、30 歳を対象に受診券を郵送しているが、受診率は 1～7%程度に留まっている。受診結果をみると、要治療・精密検査が全体の 70%以上となっている。

令和 6 年度現在の現在歯数を令和元年度と比較すると、55 歳以上で 28 本以上の人の割合が増加し、19 本以下の人の比率が減少傾向にある。

【令和6年 成人歯科検診の受診状況】

年齢	対象者	受診者	受診率	判 定 結 果						
				異常なし		要指導		要治療・精密検査		合計
				人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
20 歳	161	4	2.5%	1	25.0%	1	25.0%	2	50.0%	4
30 歳	175	5	2.9%	0	0.0%	1	20.0%	4	80.0%	5
40 歳	167	3	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%	3
45 歳	232	3	1.3%	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	3
50 歳	362	4	1.1%	0	0.0%	1	25.0%	3	75.0%	4
55 歳	409	7	1.7%	0	0.0%	1	14.3%	6	85.7%	7
60 歳	367	12	3.3%	0	0.0%	1	8.3%	11	91.7%	12
65 歳	352	16	4.5%	0	0.0%	4	25.0%	12	75.0%	16
70 歳	396	22	5.6%	2	9.1%	7	31.8%	13	59.1%	22
75 歳	498	35	7.0%	6	17.1%	4	11.4%	25	71.4%	35
80 歳	388	15	3.9%	1	6.7%	2	13.3%	12	80.0%	15
合計	3507	126	3.6%	11	8.7%	23	18.3%	92	73.0%	126

【現 在 歯 数】

年齢	令和元年度				令和6年度			
	28 本以上	27～25 本	24～20 本	19 本以下	28 本以上	27～25 本	24～20 本	19 本以下
20 歳					100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30 歳					100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40 歳	88.9%	0.0%	11.1%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
45 歳	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
50 歳	69.2%	15.4%	15.4%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
55 歳	41.7%	33.3%	16.7%	8.3%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
60 歳	33.3%	50.0%	8.3%	8.3%	58.3%	16.7%	25.0%	0.0%
65 歳	56.3%	18.8%	6.3%	18.8%	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%
70 歳	27.6%	51.7%	17.2%	3.4%	31.8%	27.3%	27.3%	13.6%
75 歳	38.1%	23.8%	23.8%	14.3%	34.3%	22.9%	28.6%	14.3%
80 歳	15.4%	38.5%	15.4%	30.8%	26.7%	26.7%	20.0%	26.7%